

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2012-197110
(P2012-197110A)

(43) 公開日 平成24年10月18日(2012. 10. 18)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 5 D 33/02 (2006.01)	B 6 5 D 33/02	3 E 0 6 4
B 6 5 D 33/00 (2006.01)	B 6 5 D 33/00	C 3 E 0 6 7
B 6 5 D 77/06 (2006.01)	B 6 5 D 77/06	H

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号	特願2011-63229 (P2011-63229)	(71) 出願人	000006127 森永乳業株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号
(22) 出願日	平成23年3月22日 (2011. 3. 22)	(71) 出願人	000002897 大日本印刷株式会社 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
		(74) 代理人	110000958 特許業務法人 インテクト国際特許事務所
		(74) 代理人	100083839 弁理士 石川 泰男
		(74) 代理人	100120189 弁理士 奥 和幸
		(72) 発明者	牧野 收孝 神奈川県座間市東原五丁目1番83号 森 永乳業株式会社食品総合研究所内 最終頁に続く

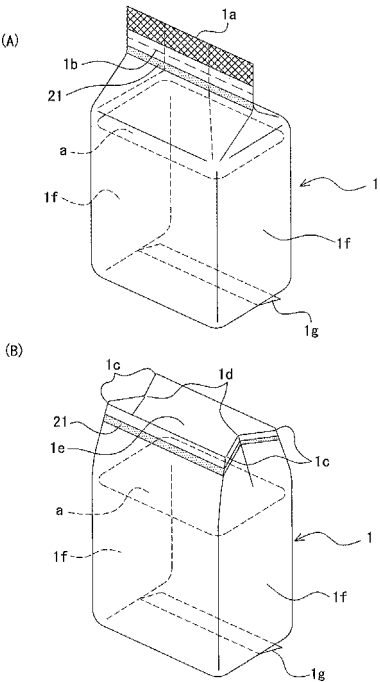
(54) 【発明の名称】 ガセット袋及び詰替容器セット

(57) 【要約】

【課題】 詰替え用のガセット袋の開封口を自動的に拡開する。

【解決手段】 金属箔層を含んだ包装材によって筒状部が形成され、筒状部の両側にマチ部（1 f）が形成され、両マチ部間を横断するように伸びる少なくとも二本の封緘部（1 a，1 g）によって内容物収納室が設けられ、いずれか一方の封緘部の近傍に切り取り予定線（1 b）が設定されたガセット袋（1）において、切り取り予定線よりも内容物収納室側の袋壁に、弾性テープ（2 1）が取り付けられる。ガセット袋を切り取り予定線上で切断して開封すると、弾性テープの弾性により開封口（1 e）が自動的に拡開する。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

金属箔層を含んだ包装材によって筒状部が形成され、筒状部の両側にマチ部が形成され、両マチ部間を横断するように伸びる少なくとも二本の封緘部によって内容物収納室が設けられ、いずれか一方の封緘部の近傍に切り取り予定線が設定されたガセツ袋において、上記切り取り予定線よりも上記内容物収納室側の袋壁に、少なくとも上記両マチ部の箇所を横切るように伸びる弾性テープが取り付けられたことを特徴とするガセツ袋。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のガセツ袋において、上記弾性テープが、上記両マチ部を含む上記袋壁の全周にわたって取り付けられたことを特徴とするガセツ袋。

10

【請求項 3】

請求項 1 に記載のガセツ袋において、上記弾性テープが、厚さ 100 μ m 以上、幅 5 mm 以上の四角形断面を有したポリエチレンテレフタレート製テープであることを特徴とするガセツ袋。

【請求項 4】

請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか一項に記載のガセツ袋に内容物を充填して密封したガセツ袋。

【請求項 5】

内容物が入れた袋と、この袋が挿入される容器本体と、上記容器本体の開口部に嵌め込まれる際に上記袋の開封口を拡開する拡開部材と、上記容器本体の開口部を開閉する開閉蓋とが組み合わされた詰替容器セットにおいて、上記袋は開封によって多角形の開封口が形成されるガセツ袋であって、金属箔層を含んだ包装材によって筒状部が形成され、筒状部の両側にマチ部が形成され、両マチ部間を横断するように伸びる少なくとも二本の封緘部によって内容物収納室が設けられ、いずれか一方の封緘部の近傍に切り取り予定線が設定され、上記切り取り予定線よりも上記内容物収納室側の袋壁に、少なくとも上記両マチ部の箇所を横切るように伸びる弾性テープが取り付けられ、上記拡開部材は、上記容器本体の開口部に装着される際に、上記容器本体内に収納されたガセツ袋の開封口における外向きノッチ部内に侵入しつつ各外向きノッチ部を拡開する第一のガイド部と、この拡開部材の上記容器本体の開口部への装着が完了する際に上記開封口の内周縁を案内して上記開封口を整った形状に拡開する第二のガイド部とを具備したことを特徴とする詰替容器セット。

20

30

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、粉ミルク等の内容物を入れて密封するガセツ袋であって、例えば詰替容器内に収納する際に開封すると、開封口が自動的に拡開するガセツ袋、及び内容物を充填したガセツ袋と、このガセツ袋が挿入される容器本体と、ガセツ袋の開封口を拡開する拡開部材と、容器本体の開口部を開閉する開閉蓋とが組み合わされた詰替容器セットに関する。

【背景技術】

40

【0002】

従来、図 12 (A) に示すような粉ミルク等の内容物 a を充填し密封したガセツ袋 30 と、図 12 (B) に示すごとく開封されたガセツ袋 30 が収納される箱型容器 (図 3 及び図 4 参照) とが用意され、箱型容器に収納されたガセツ袋 30 内の内容物 a が消費されると、新たなガセツ袋 30 が開封され箱型容器内の空のガセツ袋 30 と交換される詰替容器が知られている。

【0003】

なお、図 12 (A) (B) 中、符号 30 a、30 b、30 c は各々封緘部、切り取り予定線、開封口を示す。

【0004】

50

その他、袋口に沿って形状保持テープを接着し、形状保持テープを折り曲げることで袋口を所望の角度に保持することができるようにした袋が知られている（例えば、特許文献 1 参照）。

【0005】

また、イージーピール性のある形状保持テープを平袋の口に相対峙するように取り付け、形状保持テープ同士を重ね合わせることで平袋を閉じ、形状保持テープ同士を引き離して形状保持テープを変形させることで開封口を開口状態に保持することができるようにした袋が知られている（例えば、特許文献 2 参照。）。

【先行技術文献】

【特許文献】

10

【0006】

【特許文献 1】特開 2005 - 88893 号公報

【特許文献 2】特許第 4128089 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

上記詰替容器において、ガセット袋 30 がアルミニウム等の金属箔層を含んだ包装材で形成されている場合は、図 12 (B) に示すように、ガセット袋 30 を開封した後も包装材内の金属箔層等の折り癖によって、開封口 30c がほとんど閉じたままの状態となる。このため、開封したガセット袋を箱型容器内に入れた後、ガセット袋 30 内から内容物 a を取り出すために指等で開封口 30c を広げる必要があり、その際指等がガセット袋の開口周辺に接触したり、開封口 30c から袋内に入ったりするので衛生的でない。また、指等にも内容物 a である粉ミルク等が付着することになる。

20

【0008】

上記従来の形状保持テープを袋口に取り付けた袋を利用して袋口を大きく開いた状態に保持することも考えられるが、いずれにしても指で袋口を押し広げる操作をしなければならぬので、袋口の回りに指等が接触したり袋内に指等が入ったりするのを防止することは困難である。

【0009】

したがって、本発明は、上記問題点を解決することができるガセット袋を提供することを目的とする。

30

【課題を解決するための手段】

【0010】

上記課題を解決するため、本発明は次のような構成を採用する。

【0011】

なお、本発明の理解を容易にするため図面の参照符号を付するが、本発明はこれに限定されるものでない。

【0012】

すなわち、請求項 1 に係る発明は、金属箔層を含んだ包装材によって筒状部が形成され、筒状部の両側にマチ部 (1f) が形成され、両マチ部 (1f) 間を横断するように伸びる少なくとも二本の封緘部 (1a, 1g) によって内容物収納室が設けられ、いずれか一方の封緘部 (1a) の近傍に切り取り予定線 (1b) が設定されたガセット袋 (1) において、上記切り取り予定線 (1b) よりも上記内容物収納室側の袋壁に、少なくとも上記両マチ部 (1f) の箇所を横切るように伸びる弾性テープ (21) が取り付けられたガセット袋 (1) を採用する。

40

【0013】

なお、上記内容物 (a) は乳製品とすることができる。乳製品には、「乳及び乳製品の成分規格等に関する省令 (乳等省令) : 昭和 26 年 12 月 27 日厚生省令第 52 号」における「乳」、「乳製品」及び「乳又は乳製品を主原料とする食品」が含まれ、具体的には、乳、加工乳、乳飲料、はっ酵乳、アイスクリーム、アイスマルク、ラクトアイス、チー

50

ズ、調製粉乳、全脂粉乳、脱脂粉乳、練乳等が挙げられ、このガセット袋はいずれの乳製品も包装可能である。

【 0 0 1 4 】

ただし、本発明は、容器が開封された後に長期にわたり喫食される乳製品に好適であり、かかる乳製品としては粉末形状の乳製品、即ち粉乳が好ましく、本発明の効果を最大限に享受することができる。

【 0 0 1 5 】

なお、粉乳とは、調製粉乳、全脂粉乳、脱脂粉乳等の他、粉末クリーム、インスタントクリーミーパウダー、ホエイパウダー、バターミルクパウダー、加糖粉乳等も含まれる。

【 0 0 1 6 】

請求項 2 に記載されるように、請求項 1 に記載のガセット袋において、上記弾性テープ (2 1) が、上記両マチ部 (1 f) を含む上記袋壁の全周にわたって取り付けられたものとすることができる。

【 0 0 1 7 】

請求項 3 に記載されるように、請求項 1 に記載のガセット袋において、上記弾性テープ (2 1) が、厚さ 1 0 0 μ m 以上、幅 5 mm 以上の四角形断面を有したポリエチレンテレフタレート製テープであるものとすることができる。

【 0 0 1 8 】

請求項 4 に記載されるように、請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか一項に記載のガセット袋に内容物を充填して密封すると包装体としてのガセット袋になる。

【 0 0 1 9 】

また、請求項 5 に係る発明は、内容物が入れられた袋と、この袋が挿入される容器本体と、上記容器本体の開口部に嵌め込まれる際に上記袋の開封口を拡開する拡開部材と、上記容器本体の開口部を開閉する開閉蓋とが組み合わされた詰替容器セットにおいて、上記袋は開封によって多角形の開封口が形成されるガセット袋であって、金属箔層を含んだ包装材によって筒状部が形成され、筒状部の両側にマチ部が形成され、両マチ部間を横断するように伸びる少なくとも二本の封緘部によって内容物収納室が設けられ、いずれか一方の封緘部の近傍に切り取り予定線が設定され、上記切り取り予定線よりも上記内容物収納室側の袋壁に、少なくとも上記両マチ部の箇所を横切るように伸びる弾性テープが取り付けられ、上記拡開部材は、上記容器本体の開口部に装着される際に、上記容器本体内に収納されたガセット袋の開封口における外向きノッチ部内に侵入しつつ各外向きノッチ部を拡開する第一のガイド部と、この拡開部材の上記容器本体の開口部への装着が完了する際に上記開封口の内周縁を案内して上記開封口を整った形状に拡開する第二のガイド部とを具備した構成を採用する。

【発明の効果】

【 0 0 2 0 】

本発明によれば、金属箔層を含んだ包装材によって筒状部が形成され、筒状部の両側にマチ部 (1 f) が形成され、両マチ部 (1 f) 間を横断するように伸びる少なくとも二本の封緘部 (1 a , 1 g) によって内容物収納室が設けられ、いずれか一方の封緘部 (1 a) の近傍に切り取り予定線 (1 b) が設定されたガセット袋 (1) において、上記切り取り予定線 (1 b) よりも上記内容物収納室側の袋壁に、少なくとも上記両マチ部 (1 f) の箇所を横切るように伸びる弾性テープ (2 1) が取り付けられたガセット袋 (1) であるから、ガセット袋 (1) を切り取り予定線 (1 b) 上で切断して開封すると、弾性テープ (2 1) の弾性により開封口 (1 e) が自動的に拡開する。従って、手や指を添えて開封口 (1 e) を押し広げなくとも、袋内の内容物 (a) を簡易かつ迅速に袋外に取り出して使用することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 2 1 】

【図 1】本発明に係るガセット袋を示し、(A) は未開封状態で示す斜視図、(B) は開封状態で示す斜視図である。

10

20

30

40

50

【図 2】詰替容器の平面図である。

【図 3】図 2 中、I I I - I I I 線矢視断面図である。

【図 4】図 2 中、I V - I V 線矢視断面図である。

【図 5】拡開部材を斜め上から見た斜視図である。

【図 6】拡開部材を斜め下から見た斜視図である。

【図 7】拡開部材の平面図である。

【図 8】図 7 中、V I I I - V I I I 線矢視断面図である。

【図 9】図 7 中、I X - I X 線矢視断面図である。

【図 10】(A)(B)(C)は、拡開部材によるガセット袋の開封口の拡開作用を斜め上から見た状態で示す斜視図である。

10

【図 11】(A)(B)(C)は、拡開部材によるガセット袋の開封口の拡開作用を斜め下から見た状態で示す斜視図である。

【図 12】従来のガセット袋を示し、(A)は未開封状態で示す斜視図、(B)は開封状態で示す斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0022】

以下、本発明の望ましい形態について図面に基づいて説明する。

【0023】

図 1 乃至図 6 に示すように、詰替容器は、内容物 a が入れられた詰替え用のガセット袋 1 と、このガセット袋 1 が挿入される箱型容器である容器本体 2 と、容器本体 2 の開口部に嵌め込まれる際にガセット袋 1 の開封口 1 e をさらに整った形に拡開する拡開部材 3 と、容器本体 2 の開口部を開閉する開閉蓋 4 とを具備する。

20

【0024】

上記詰替え用のガセット袋 1 は、図 1 (A) に示すように、シート状の包装材によって筒状部が形成され、筒状部の両側にマチ部 1 f が形成され、両マチ部 1 f , 1 f 間を横断するように伸びる少なくとも二本の封緘部 1 a , 1 g によって内容物収納室が設けられ、いずれか一方の封緘部 1 a の近傍に切り取り予定線 1 b が設定された構成とされる。

【0025】

ガセット袋 1 は、合成樹脂の積層体である包装材で作られ、この積層体中には、ガスバリア性を付与するために、アルミニウム箔等の金属箔層が設けられている。この実施の形態では、包装材として、厚さ 12 μm のポリエチレンテレフタレート / 厚さ 7 μm のポリエチレン樹脂層 / 厚さ 7 μm のアルミニウム箔 / 厚さ 15 μm のポリエチレン樹脂層 / 厚さ 40 μm のポリエチレン樹脂フィルム層の積層材が用いられている。

30

【0026】

封緘部 1 a , 1 g はヒートシールによって形成され、両マチ部 1 f , 1 f 間を帯状になって横断し、これによりガセット袋 1 内が密封される。

【0027】

切り取り予定線 1 b は、特に物理的に形成する必要はないが、必要に応じて、例えば上記積層体中所望の層に切り取り用ミシン目を刻設することにより設けられ、あるいは印刷表示によって設けられる。

40

【0028】

図 1 (A) に示すように、ガセット袋 1 の袋壁には、弾性テープ 2 1 が、上記切り取り予定線 1 b よりも内容物収納室側において両マチ部 1 f , 1 f を含む袋壁全周にわたって取り付けられる。

【0029】

弾性テープ 2 1 は、例えばポリエチレンテレフタレートによって形成され、望ましくは厚さ 100 μm 以上、幅 5 mm 以上の四角形断面を有するものとされる。弾性テープ 2 1 の材料としては、ポリエチレンテレフタレートのほか、ポリエチレン、塩化ビニール、ゴム、シリコン樹脂等を用いることも可能である。また、断面形も四角形断面に限られるものでもないし、大きさも上記サイズに限定されるものでもない。

50

【 0 0 3 0 】

この弾性テープ 2 1 が袋壁の内面又は外面にヒートシール又は接着剤によって貼着される。弾性テープ 2 1 の貼着は、望ましくはガセット袋 1 に形成される前の包装材に対して行われる。

【 0 0 3 1 】

このように、弾性テープ 2 1 が取り付けられたガセット袋 1 は、切り取り予定線 1 b 上で袋壁を切断し、封緘部 1 a を除去すると、図 1 (B) に示すように、弾性テープ 2 1 の弾性により開口が自動的に拡開する。従って、手や指を添えて開封口 1 e を押し広げなくとも、袋内の内容物 a を簡易かつ迅速に袋外に取り出して使用することができる。

【 0 0 3 2 】

なお、弾性テープ 2 1 は必ずしも袋壁の全周にわたって取り付ける必要はなく、少なくとも両マチ部 1 f , 1 f の箇所のみを横切って伸びるものとしてもよい。これにより、折り癖の付いた両マチ部 1 f , 1 f の箇所を重点的に弾性テープ 2 1 の弾性によって押し広げ、開封口 1 e を適正に開けることができる。

【 0 0 3 3 】

上記内容物 a は、この実施の形態では乳製品である粉ミルクとされるがその他のものであってもよい。

【 0 0 3 4 】

このガセット袋 1 は、詰替に際して上述のごとく切り取り予定線 1 b 上で封緘部 1 a が切除されることにより開封され、図 1 (B) に示すように、上記弾性テープ 2 1 が元の直線状に復帰しようとする弾性作用によって開封口 1 e が自動的に大きく開く。

【 0 0 3 5 】

なお、この開封口 1 e には、開口した当初四隅に各々外向きノッチ部 1 c が多少残留し、二対の外向きノッチ部 1 c の各対間に内向きノッチ部 1 d が多少残留する。ここで、外向きノッチ部は、ガセット袋を構成するシートの折り目が開封口 1 e の外側に V 字形に突出した部分であり、内向きノッチ部は、ガセット袋を構成するシートの折り目が開封口 1 e の内側に V 字形に突出した部分である。

【 0 0 3 6 】

この開封されたガセット袋 1 は、図 1 (B) に示す開封状態で容器本体 2 内に収納される。あるいは、容器本体 2 内に収納された後に図 1 (B) に示す開封状態とされる。

【 0 0 3 7 】

容器本体 2 は、図 3 及び図 4 に示すように、前後壁 2 a , 2 b と左右壁 2 c , 2 d と底壁 2 e とを具備した全体として略直方体の箱型容器として形成される。この箱の開口部から上記開封されたガセット袋 1 又は未開封のガセット袋 1 が収納可能である。

【 0 0 3 8 】

容器本体 2 の開口部の外周には、上から下へと嵌合突起 5 、上リブ 6 、下リブ 7 が順に設けられる。図 3 及び図 4 に示すように、嵌合突起 5 は、拡開部材 3 の嵌合部 8 が容器本体 2 の開口部に被さったときに、この嵌合部 8 の嵌合突起 8 a と嵌合可能である。図 3 に示すように、上リブ 6 には拡開部材 3 の嵌合部 8 の下縁が当接可能であり、下リブ 7 には開閉蓋 4 の嵌合部 9 の下縁が当接可能である。

【 0 0 3 9 】

また、容器本体 2 の後壁 2 b には、一対のヒンジを構成するためのブラケット 1 0 が設けられる。図 2 及び図 4 に示すように、このブラケット 1 0 に開閉蓋 4 のヒンジ軸 1 1 が連結可能である。このブラケット 1 0 とヒンジ軸 1 1 からなるヒンジは例えば薄肉部で連結して、容器本体 2 及び開閉蓋 4 と一体的に形成することも可能である。また、ヒンジは拡開部材 3 と開閉蓋 4 との間に設けることも可能である。

【 0 0 4 0 】

開閉蓋 4 は、図 2 乃至図 4 に示すように、天板 1 2 と、天板 1 2 の周りに垂下する内外二重の周壁 9 a , 9 b よりなる嵌合部 9 とを具備する。

【 0 0 4 1 】

10

20

30

40

50

図 2 乃至図 4 に示すように、この開閉蓋 4 の嵌合部 9 が、拡開部材 3 の嵌合部 8 の上から容器本体 2 の開口部に嵌合する。すなわち、開閉蓋 4 で容器本体 2 の開口部を閉じたとき、容器本体 2 の開口部に嵌合した拡開部材 3 の嵌合部 8 が内外二重の周壁 9 a , 9 b 間に侵入し、これにより容器本体 2 と拡開部材 3 と開閉蓋 4 の三者が合体する。

【 0 0 4 2 】

拡開部材 3 は、図 5 乃至図 9 に示すように、容器本体 2 と開閉蓋 4 とは別体のガセット袋開封口拡開具として形成される。

【 0 0 4 3 】

拡開部材 3 は、容器本体 2 の開口部に合致しうる大きさの枠型に形成される。そして、この枠の外周側に、図 2 乃至図 4 に示すように、容器本体 2 の開口部に被さり、また、開閉蓋 4 の嵌合部 9 に被せられることで、この拡開部材 3 を容器本体 2 と開閉蓋 4 と一体化させる嵌合部 8 が設けられる。

【 0 0 4 4 】

拡開部材 3 における嵌合部 8 の内周側からは、斜壁 1 3 が下がり、この斜壁 1 3 の下端からは環状の水平壁 1 4 が内方に突出し、この水平壁 1 4 の内周にガセット袋 1 の開封口 1 e への挿入体が概ね漏斗状に設けられる。

【 0 0 4 5 】

この挿入体は、その中央の略長方形の開口 3 a における四隅に、ガセット袋 1 の開封口 1 e の四隅における外向きノッチ部 1 c に各々対応する第一のガイド部 1 5 を有し、第一のガイド部 1 5 と上記水平壁 1 4 との間に、ガセット袋 1 の完全に拡開した開封口 1 e の内周縁に対応する第二のガイド部 1 7 を有する。

【 0 0 4 6 】

また、上記開口の二短辺の各中央には、第一のガイド部 1 5 による開封口 1 e の拡開時に開封口 1 e の内向きノッチ部 1 d の通過を許容する逃げ部 1 6 が必要に応じて設けられる。

【 0 0 4 7 】

なお、この逃げ部 1 6 の下面を、拡開中の内向きノッチ部 1 d が接触しつつ移動するガイド部とすることも可能である。

【 0 0 4 8 】

第一のガイド部 1 5 が開封口 1 e の各外向きノッチ部 1 c 内に侵入して外向きノッチ部 1 c が拡開すると同時に内向きノッチ部 1 d が拡開し始めるが、その際逃げ部 1 6 が内向きノッチ部 1 d の動きを妨げないので、開封口 1 e が円滑に拡開することとなる。

【 0 0 4 9 】

挿入体の中央の開口 3 a は容器本体 2 の開口部の開口よりやや小さく、この開口を通して内容物 a の取り出しが行われる。

【 0 0 5 0 】

開封されたガセット袋 1 が収納された容器本体 2 の開口部に、拡開部材 3 が装着される際、図 1 0 (A) 及び図 1 1 (A) に示すように、まず、その挿入体の第一のガイド部 1 5 がガセット袋 1 の開封口 1 e における外向きノッチ部 1 c 内に侵入しつつ各外向きノッチ部 1 c を同時に拡開する。図 1 0 (B) 及び図 1 1 (B) に示すように、同時に各内向きノッチ部 1 d も拡開しようとするが、逃げ部 1 6 がこの内向きノッチ部 1 d の移動に伴う衝突を回避する。続いて、図 1 0 (C) 及び図 1 1 (C) に示すように、第二のガイド部 1 7 が開封口 1 e の内周縁を案内して開封口 1 e を整った形状に拡開し保形する。同時に、拡開部材 3 の嵌合部 8 が図 3 及び図 4 のごとく容器本体 2 の開口部と嵌合し、拡開部材 3 が容器本体 2 と一体化される。かくて、この拡開部材 3 の容器本体 2 の開口部への装着が完了する。

【 0 0 5 1 】

なお、第二のガイド部 1 7 間は、水平壁 1 4 から垂下する垂下壁 1 7 a に連なり、その結果、第二のガイド部 1 7 は容器本体 2 の開口部の全内周に沿って壁状に延びることになる。これにより、ガセット袋 1 の開封口 1 e の全内周縁は、図 3 及び図 4 に示すように、

拡開部材 3 の開口 3 a の縁で遮蔽されるので、ガセット袋 1 から内容物 a を取り出す際に内容物 a が容器本体 2 とガセット袋 1 との間に落下するという不具合が防止される。

【 0 0 5 2 】

また、図 2 及び図 3 に示すように、嵌合部 8 の内周側に斜壁 1 3 が設けられることで斜壁 1 3 の内側には凹部が形成され、斜壁 1 3 に連なるように環状の水平壁 1 4 が設けられる。図 2 及び図 3 に示すように、この水平壁 1 4 上にスプーン等計量具 1 8 が置かれる。

【 0 0 5 3 】

また、拡開部材 3 には、図 5 乃至図 9 に示すように、その中央の開口 3 a を横断するように摺り切り 1 9 が架け渡される。上記計量具 1 8 で掬った内容物 a をこの摺り切り 1 9 により摺り切ることが可能である。

10

【 0 0 5 4 】

また、拡開部材 3 の周縁すなわち嵌合部には、外方向に突出する摘み片 2 0 が設けられる。操作者は摘み片 2 0 を持って拡開部材 3 を容器本体 2 等に対し簡易に着脱することができる。

【 0 0 5 5 】

次に、上記構成の詰替容器及び拡開部材の作用について説明する。

【 0 0 5 6 】

(1) 粉ミルク等の内容物 a が収納されたガセット袋 1 は、当初図 1 (A) に示すような開封口 1 e が封緘部 1 a で密封された状態にある。

【 0 0 5 7 】

20

このガセット袋 1 の封緘部 1 a が、切り取り予定線 1 b 上で切除されることにより、図 1 (B) に示すように開封される。この開封されたガセット袋 1 が容器本体 2 内に挿入される。あるいは、未開封のガセット袋 1 が容器本体 2 内に収納された後、その封緘部 1 b が切除されることにより開封される。

【 0 0 5 8 】

開封口 1 e は弾性テープ 2 1 の元の直線状に復帰しようとする弾性作用により、図 1 (B) に示すように開封と同時に自動的に大きく拡開する。従って、操作者は手や指で開封口 1 e の回りや袋内に触れることなく、内容物 a を簡易かつ迅速に袋外に取り出すことができる。

【 0 0 5 9 】

30

(2) ガセット袋 1 の開封口 1 e には、図 1 (B) に示すように、当初四つの外向きノッチ部 1 c と二つの内向きノッチ部 1 d とが多少残留する場合がある。

【 0 0 6 0 】

この容器本体 2 内のガセット袋 1 の開封口 1 e 内に、操作者によって拡開部材 3 の挿入部が挿入される。

【 0 0 6 1 】

この拡開部材 3 の装着は必要に応じて行われるもので、上記弾性テープ 2 1 による開封口 1 e の拡開が十分であれば省略可能である。あるいは、拡開部材 3 における第一のガイド部 1 5 や逃げ部 1 6 を省略してもよい。

【 0 0 6 2 】

40

(3) 図 1 0 (A) 及び図 1 1 (A) に示すように、まず、拡開部材 3 における挿入体の第一のガイド部 1 5 がガセット袋 1 の開封口 1 e における外向きノッチ部 1 c 内に侵入しつつ各外向きノッチ部 1 c を同時に拡開する。

【 0 0 6 3 】

(4) 続いて、図 1 0 (B) 及び図 1 1 (B) に示すように、逃げ部 1 6 が開封口 1 e における内向きノッチ部 1 d の通過を許容し、また、この逃げ部 1 6 の奥に設けられた庇状ガイド部 1 6 a が内向きノッチ部 1 d に当接しながら各内向きノッチ部 1 d を拡開状態へと案内する。

【 0 0 6 4 】

(5) さらに、図 1 0 (C) 及び図 1 1 (C) に示すように、第二のガイド部 1 7 が開

50

封口 1 e の内周縁を案内して開封口 1 e を整った形状に拡開し保持する。

【 0 0 6 5 】

(6) ガセツ袋 1 の開封口 1 e が第二のガイド部 1 7 によって略長方形に開き切ると同時に、拡開部材 3 の嵌合部 8 が図 3 及び図 4 のごとく容器本体 2 の開口部と嵌合し、拡開部材 3 が容器本体 2 と一体化される。

【 0 0 6 6 】

かくて、操作者の指等がガセツ袋 1 の内部に触れることなく、ガセツ袋 1 の開封口 1 e が更に大きく整った四角形に開かれた状態で速やかに詰替容器の開口部に装着されることとなる。

【 0 0 6 7 】

(7) ガセツ袋 1 の内容物 a を取り出すには、スプーン等の計量具 1 8 を拡開部材 3 の開口 3 a からガセツ袋 1 内に挿入して内容物 a を掬い、摺り切り 1 9 で余剰の内容物 a を除去し、容器本体 2 外へに取り出す。

【 0 0 6 8 】

(8) 第二のガイド部 1 7 及び垂下壁 1 7 a が容器本体 2 の開口部の全内周に沿って伸びるので、ガセツ袋 1 の開封口 1 e の全内周は、図 3 及び図 4 に示すように、拡開部材 3 の開口縁から遮蔽される。これにより、ガセツ袋 1 から内容物 a を取り出す際に内容物 a が容器本体 2 とガセツ袋 1 との間に落下するという不具合が防止される。

【 0 0 6 9 】

(9) 内容物 a の取り出し後、開閉蓋 4 を容器本体 2 の開口部側に倒して開閉蓋 4 の嵌合部 9 を拡開部材 3 の嵌合部 8 に嵌合させることで、開閉蓋 4 によって再びガセツ袋 1 内を密閉状態に保つことができる。

【 0 0 7 0 】

(1 0) ガセツ袋 1 内の内容物 a が消費されると、開閉蓋 4 を開け、拡開部材 3 を容器本体 2 から取り外し、空のガセツ袋 1 を容器本体 2 から抜き取り、新しいガセツ袋 1 を開封して上述したと同様な手順で容器本体 2 内に装着する。ガセツ袋 1 の開封口 1 e は弾性テープ 2 1 の復元作用で適正に拡開する。

【 0 0 7 1 】

また、この開封口 1 e の拡開が不十分、不完全であっても、拡開部材 3 でガセツ袋 1 の開封口 1 e を拡開することでより整った形状の開封口 1 e を形成し、中味の内容物 a を取り出すことができる。

【 0 0 7 2 】

なお、本発明は上記実施の形態に限定されるものではなく、本発明の要旨の範囲内で種々変更可能である。例えば、実施の形態では内容物は粉ミルクであるが、そのような粉末状のほか、顆粒状、粒状、ブロック状、ペースト状等各種の形態の食品とすることができる。その他、内容物は、錠剤であってもよいし、個々のピースが個包装されたピース状のものであってもよい。

【実施例】

【 0 0 7 3 】

ポリプロピレン、ポリエチレンテレフタレートを各々使用し、また、断面が四角形であって断面積を種々変化させた弾性テープを作成した。そして、各弾性テープを、粉ミルクを充填したガセツ袋の封緘部に沿って袋全周にヒートシールにより貼着した。これらガセツ袋の封緘部を切除して開封口を見たところ、下表 1 の結果を得た。

【 0 0 7 4 】

10

20

30

40

【表 1】

試料	1	2	3	4	5	6	7
材質	OPP	PET	PET	PET	PET	PET	PET
断面形状 (厚さ×幅)	60 μ m × 5 mm	50 μ m × 10 mm	100 μ m × 5 mm	100 μ m × 10 mm	100 μ m × 10 mm	100 μ m × 10 mm	100 μ m × 10 mm
開封口から 貼着位置 までの距離	10 mm	10 mm	10 mm	3 mm	10 mm	15 mm	20 mm
開封口の 開口性	△	△	○	○	○	○	○

10

【 0 0 7 5 】

表 1 中、「OPP」は延伸ポリプロピレンを示し、「PET」はポリエチレンテレフタレートを示す。「△」は開封口の自動開口性が不十分で、指を使わなければ十分に開けることができなかった場合を示し、「○」は開封口の自動開口性が十分であった場合を示す。

20

【 0 0 7 6 】

表 1 に示した内容から明らかなように、弾性テープが、厚さ 100 μ m 以上、幅 5 mm 以上の長方形断面のポリエチレンテレフタレート製テープである場合に、良好な自動開口性を得ることができる。

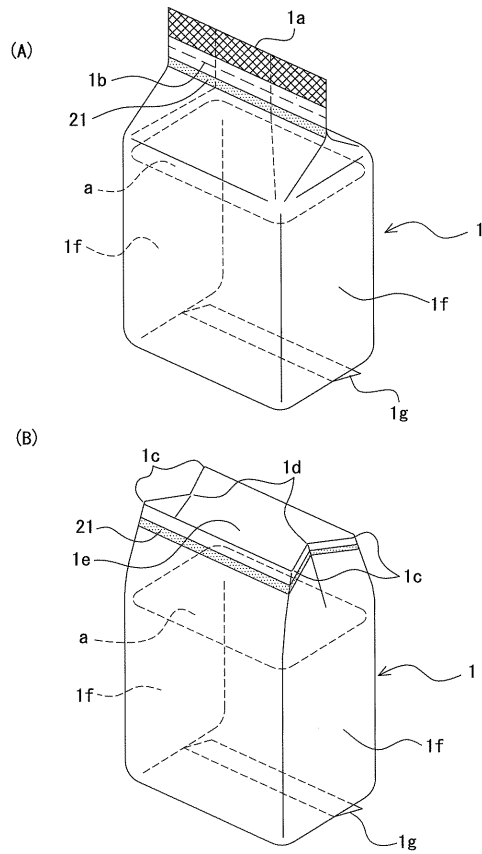
【符号の説明】

【 0 0 7 7 】

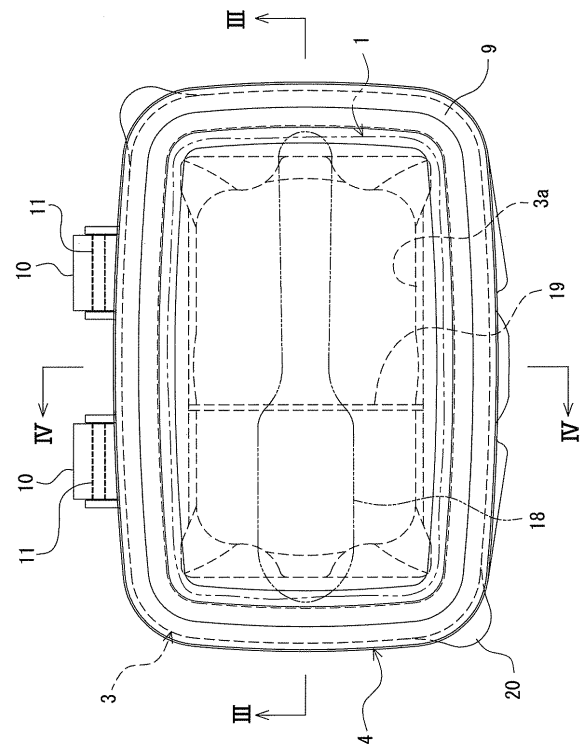
- 1 ... ガセット袋
- 1 a , 1 g ... 封緘部
- 1 b ... 切り取り予定線
- 1 e ... 開封口
- 1 f ... マチ部
- 2 1 ... 弾性テープ
- a ... 内容物

30

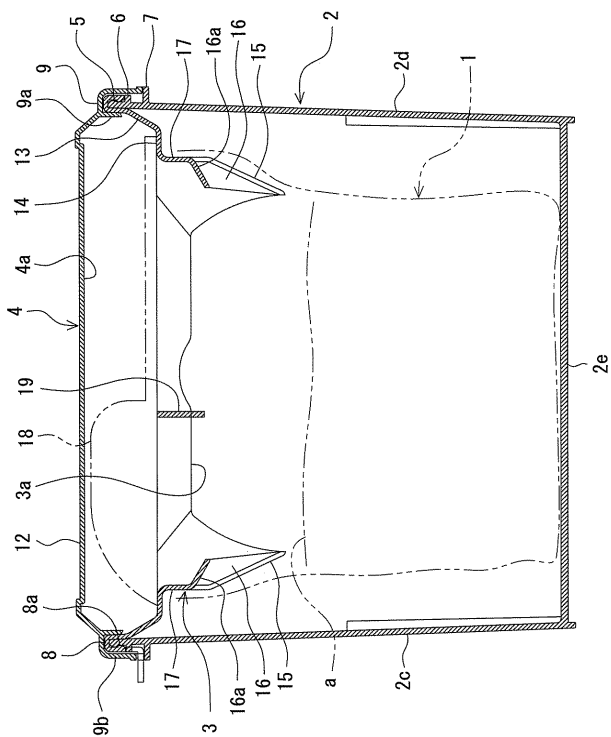
【図 1】



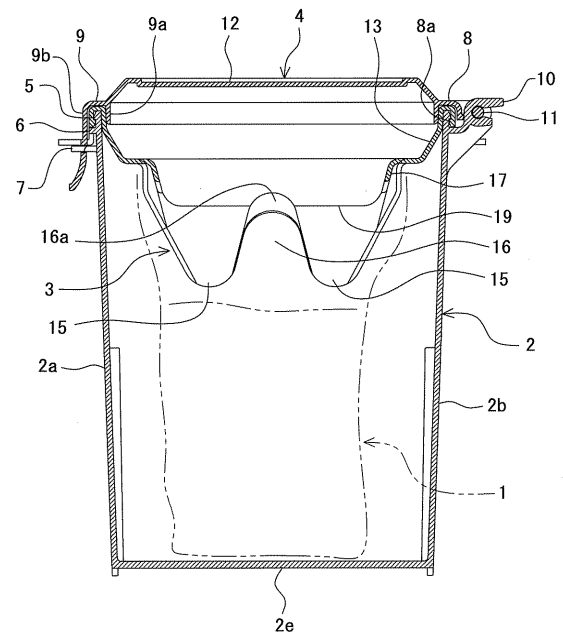
【図 2】



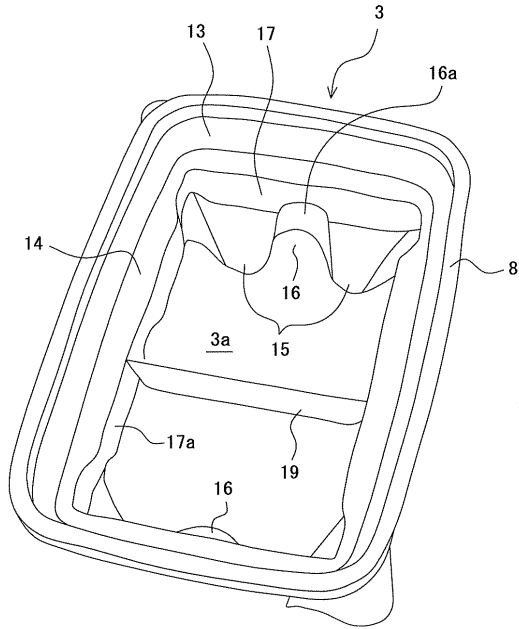
【図 3】



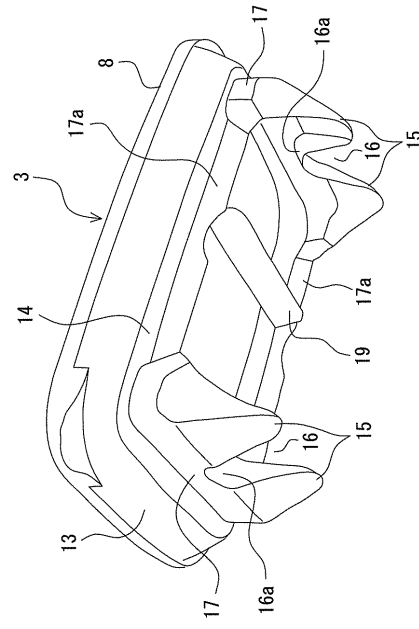
【図 4】



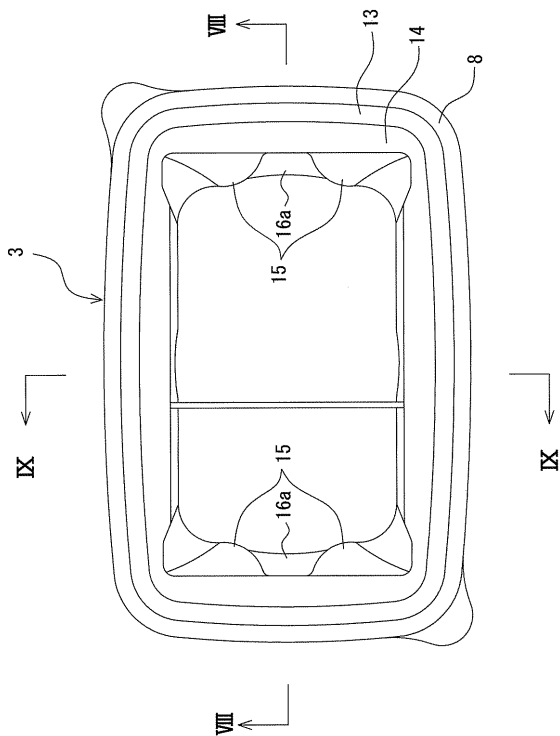
【図 5】



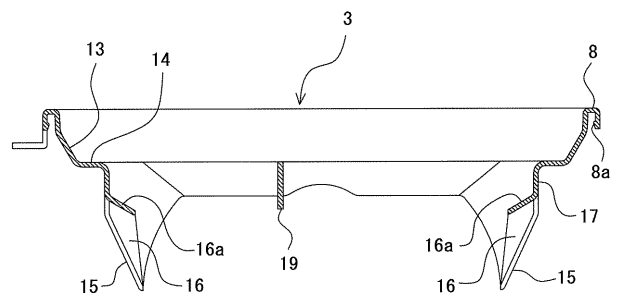
【図 6】



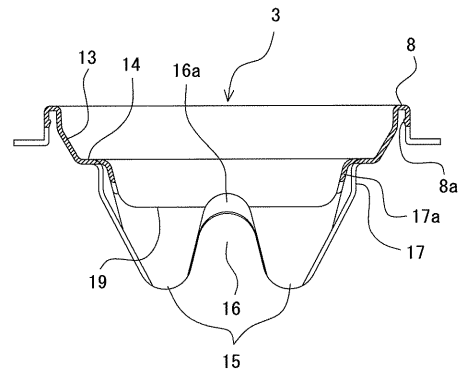
【図 7】



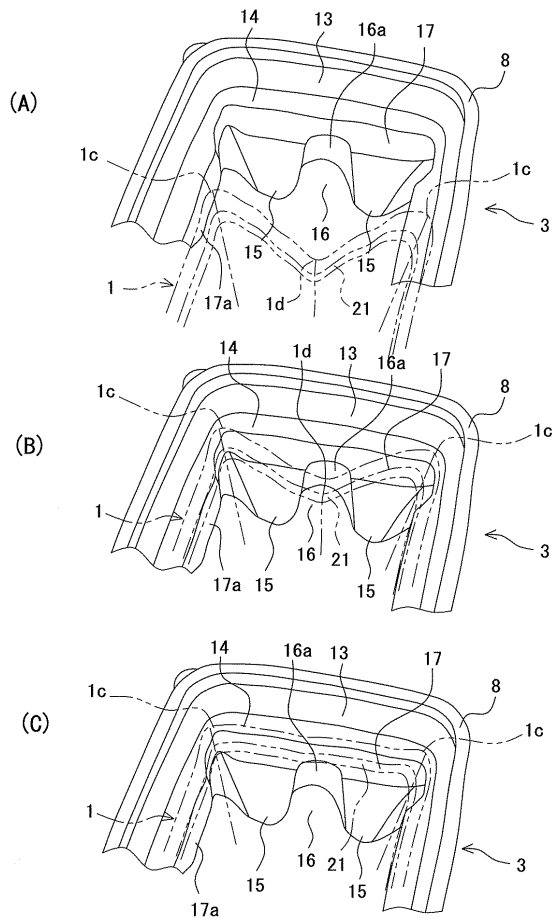
【図 8】



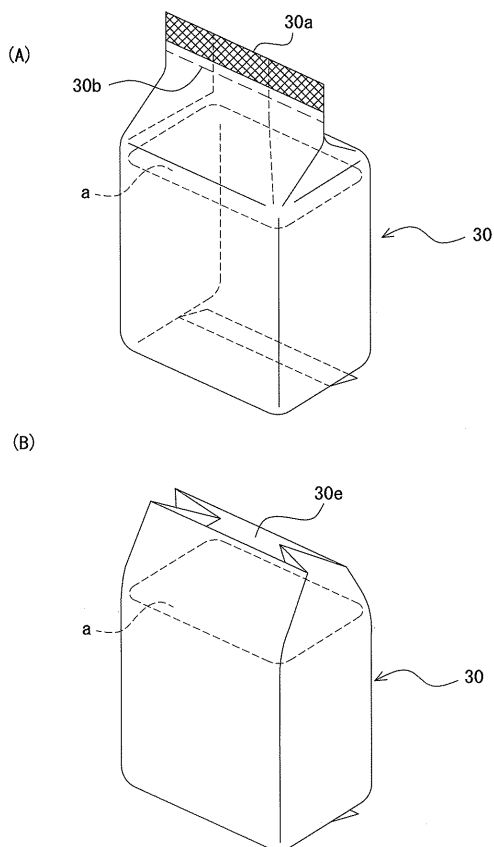
【図 9】



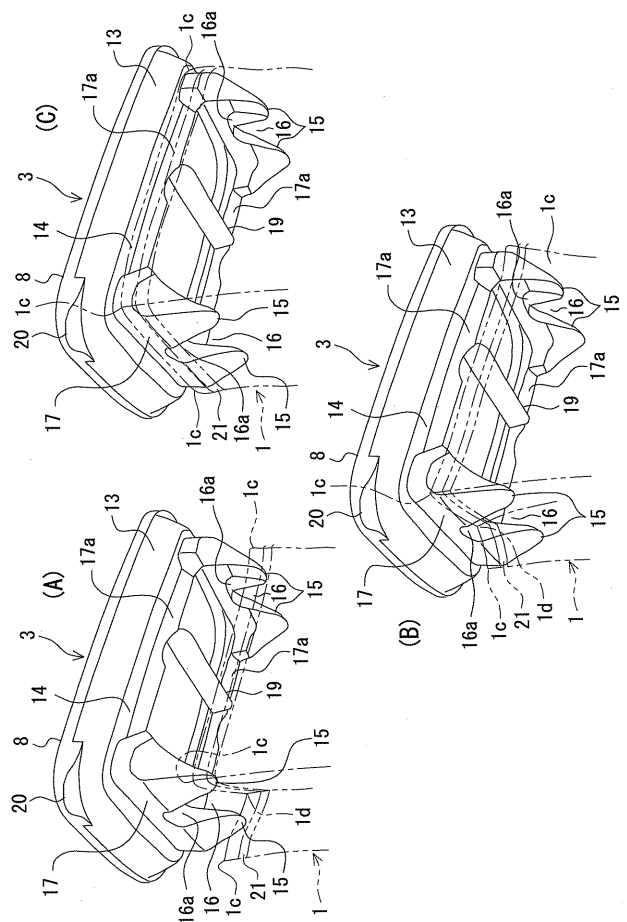
【図 10】



【図 12】



【図 11】



フロントページの続き

(72)発明者 福本 康洋

神奈川県座間市東原五丁目1番83号 森永乳業株式会社食品総合研究所内

(72)発明者 高橋 拓

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 大日本印刷株式会社内

(72)発明者 亀田 克巳

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 大日本印刷株式会社内

F ターム(参考) 3E064 AA13 BA17 BA26 BA55 BB03 BC08 BC18 EA12 EA18 EA23

EA30 FA06 HF06 HG02 HN06 HP02

3E067 AA05 AA21 AA24 AB23 AC01 BA05C BA12B BB12B BB14B BB25B

BC03B BC06C CA06 CA24 EA06 EA32 EB01 EB20 EB21 EB27

FA04 FC01 GD07